

第2章

大学生活について

第1節

入学した頃の気持ち

- 1 大学志望度と進学満足度
- 2 大学生活への期待

第2節

大学生の生活実態

- 1 大学生活で力を入れてきたこと
- 2 通学日数・大学で過ごす時間
- 3 ふだんの時間の過ごし方－学習時間
- 4 ふだんの時間の過ごし方－学習以外の生活時間
- 5 通学時間・居住形態
- 6 大学生の経済状況

第3節

先生と友人との関係

- 1 先生との交流
- 2 先生との交流の場
- 3 友だちの数
- 4 友だちと知り合ったきっかけ
- 5 対人意識

第4節

大学への適応と満足度

- 1 大学での適応度
- 2 大学満足度

愛媛大学 准教授 山田 剛史 (第1節～第2節1、第4節)

立教大学 学術調査員 谷田川 ルミ (第2節2～第3節)

第1節

入学した頃の気持ち

1 大学志望度と進学満足度

現在の大学・学部に進学した時の気持ちについてたずねたところ、5割強の学生が第一志望であること、全体の8割弱の学生は現在の進学に満足していること、一方で、第一志望でとても満足している学生は全体の4分の1であることが確認された。また、進学満足度は志望順位（高順位>低順位）や入試難易度（難>易）と強く関連していることが確認された。

「第一志望」の学生は全体の約半数

大学進学に関する実態や学生の意識はどのようなものなのか。ここでは、3つの観点（大学志望度、進学満足度、学問分野一貫性）から質問を行っている。1点目の「現在通っている大学の志望度」について、全体では、「第一志望」53.9%、「第二志望」24.1%、「第三志望以下」22.0%と、第一志望以外の学生の割合が半数近くに上っている（図2-1-1）。図2-1-2は大学志望度を入試方法別にみたものである。これを見ると、第一志望進学者の割合は「一般・センター入試」が40.7%、それ以外は概ね8割前後と、「一般・センター入試」が平均値を大きく下げていることがわかる。

「本意入学」の学生は全体の約4分の1

2点目の「現在の大学・学部に進学した時の気持ち」について、全体では、「とても満足して入学した」31.5%、「まあ満足して入学した」46.4%、「あまり満足していないが入学した」16.3%、「全く満足していないが入学した」5.7%と、8割近くの学生がある

程度満足している状況がうかがえる（図2-1-3）。では、大学志望度と進学満足度にはどのような関連があるのだろうか。それを表したものが図2-1-4である。これを見ると、志望順位が下がるにつれて進学満足度が大きく低下していることがわかる。その一方で、第一志望の学生でも「とても満足して入学した」学生の割合は5割と半数にとどまっている。これらのことから、第一志望者は全体の約半数、そのうちとても満足して入学した学生はその半分、つまりおおよそ4分の1の学生のみがいわゆる「本意入学」に該当するということになる。

さらに、入試難易度別では、偏差値「60以上」85.1%、「50以上60未満」77.0%、「50未満」69.4%（「とても満足して入学した」+「まあ満足して入学した」の%）と、入試難易度が下がるにつれて満足度も低くなっている（図2-1-5）。また、学部系統別にみたものが図2-1-6である。「社会科学」「理工」分野の学生の不満足割合（「あまり満足していないが入学した」+「全く満足していないが入学した」の%）が約25%、すなわち4人に1人の割合で存在していることがわかる。

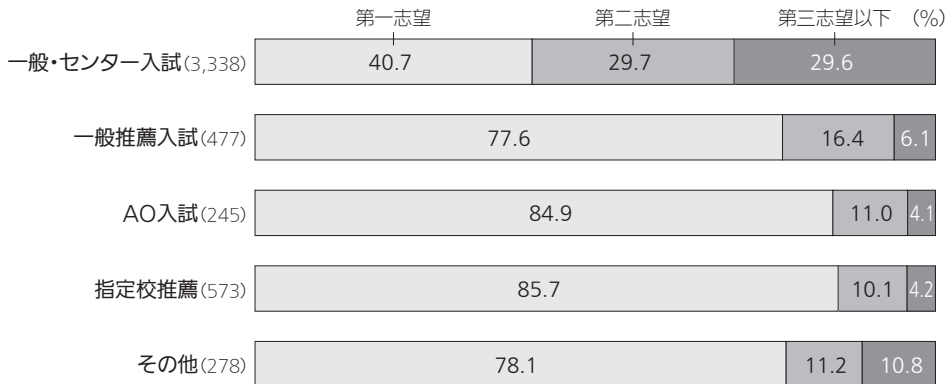


受験した時の、現在通っている大学の志望度について、あてはまるもの1つをお選びください。

図2-1-1 大学志望度 (全体)



図2-1-2 大学志望度 (入試方法別)

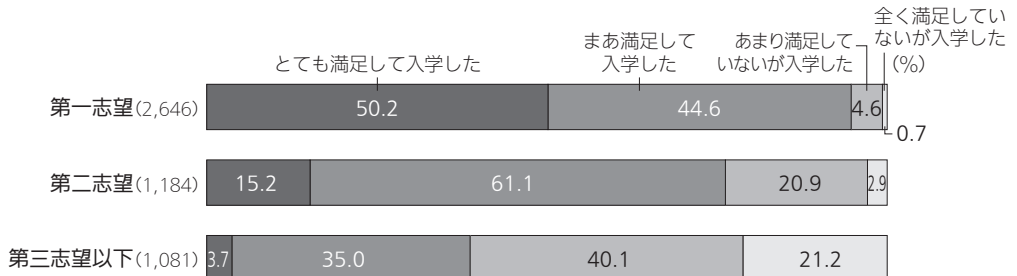


現在の大学・学部に進学した時の気持ちとして、もっとも近いもの1つをお選びください。

図2-1-3 進学満足度 (全体)



図2-1-4 進学満足度 (大学志望度別)



「社会科学」で学問分野の不一致度が高く、
全体の約4分の1

3点目は「現在の大学・学部と学びたい学問分野との一致度」に関する質問である。全体では、一致80.1%（「はい」の%、以下同）、不一致19.9%（「いいえ」の%、以下同）となっているが（図2-1-7）、学部系統別にみ

ると（図2-1-8）、最も一致度が高かったのは「理工」で一致83.8%、不一致16.2%、逆に最も不一致度が高かったのは「社会科学」で一致75.6%、不一致24.4%と、およそ4人に1人が入学前に学びたかった分野とは異なる分野で学んでいることがわかる。

図2-1-5 進学満足度（入試難易度〔偏差値〕別）

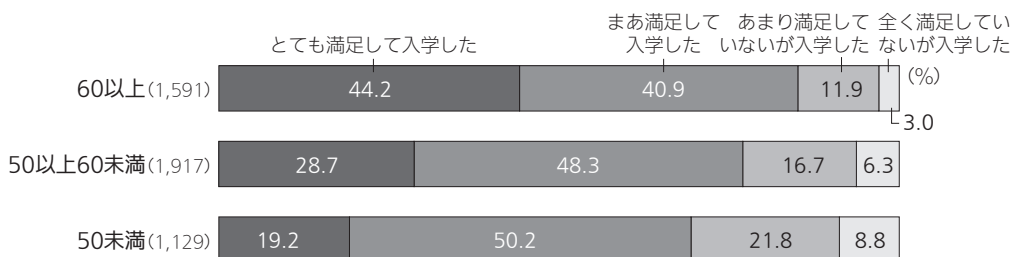
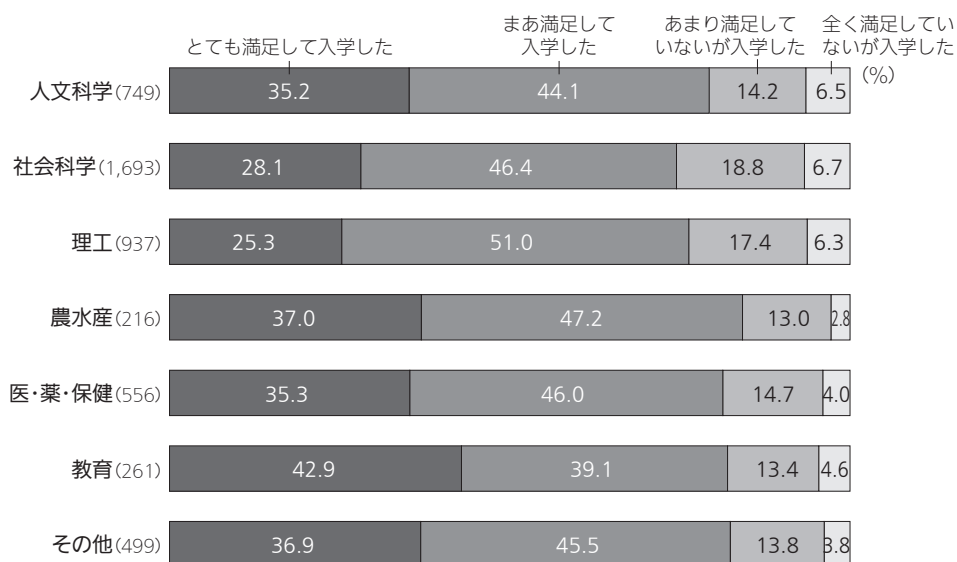


図2-1-6 進学満足度（学部系統別）





現在通っている大学の学部・学科は入学前にあなたが最も学びたいと思っていた学問分野でしたか。

図 2-1-7 入学前と現在の学問分野の一致・不一致（全体）

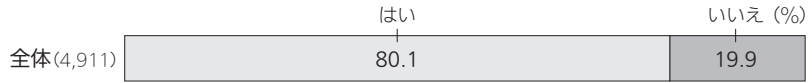
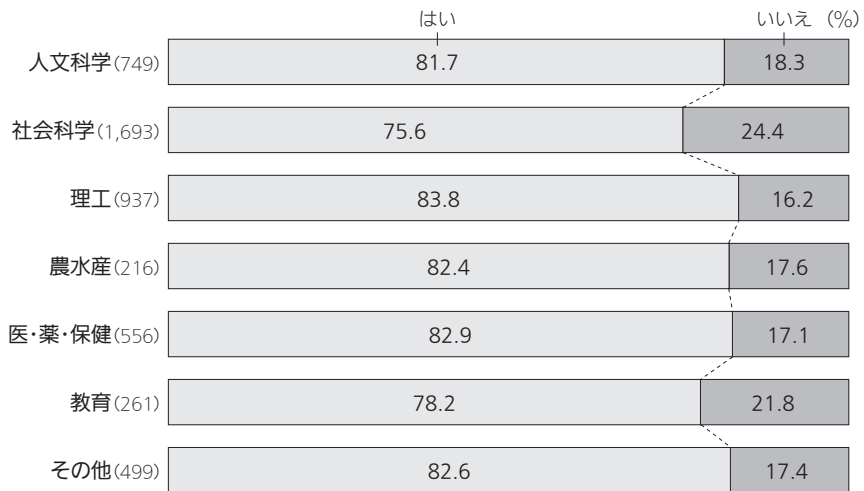


図 2-1-8 入学前と現在の学問分野の一致・不一致（学部系統別）



2 大学生活への期待

入学時の大学生活への期待についてたずねたところ、将来の目標を在学中に見つけたい、将来の仕事に役立つ力を身につけたいなど、入学時から将来への不安が潜在していることがうかがえる。また、専門分野を深く学びたいと第一に考える学生は全体の3人に1人の割合となっているなど、学生が大学生活に期待していることは多様化していることがわかる。

将来への不安が入学時の意識に反映

現在の大学生は、大学入学に際しどのような意識・期待を持っているのだろうか。ここでは8つの項目についてどの程度意識していたかを聞いている。全体の結果は、図2-1-9の通りである。最も高かったのは「自分の将来の方向をみつけたい」(89.7%、「とてもそう思っていた」+「まあそう思っていた」の%、以下同)であった。次いで、「将来の仕事に役立つような力を身につけたい」(86.6%)、「専門分野について深く学びたい」(86.0%)、そして「友人をつくりよい人間関係を広げたい」(84.2%)となっている。これまで大学生は将来の目標を実現するために大学に進学してくるもの、つまり将来の方向性は既に定まっているものと考えられてきた。しかし、近年では大学に入ってから将来の目標を決めたいという学生が少なからず存在することが指摘されている。今回のデータからもそのことを支持していることがわかる。加えて、「将来の仕事に役立つような力を身につけたい」ということも2番目に高い割合となっている。現在の慢性的な不況の中で、学生は進学する段階から卒業後のことを見据えて大学生活を捉えていることがうかがえる。将来の方向性は定まっていなくてもかかわらず、将来の仕事に役立つ力を身につけたいと多くの学生が考えていることから、強い将来への不安や大学に対する多様なニーズを有していることが推察される。

多様化している学生の大学生活に対する期待

次に、同じ8つの質問項目の中で、入学時に1番強く意識していたことを挙げてもらった。全体では、最も高かったのは「専門分野について深く学びたい」(33.5%)、次いで「自分の将来の方向をみつけたい」(11.5%)、「就職につながる学習や資格取得、活動をしたい」(10.9%)となっている。ここでは専門分野への期待が最も強いことがうかがえるが、絶対数としては全体の約3分の1にとどまっている(巻末の基礎集計表を参照)。

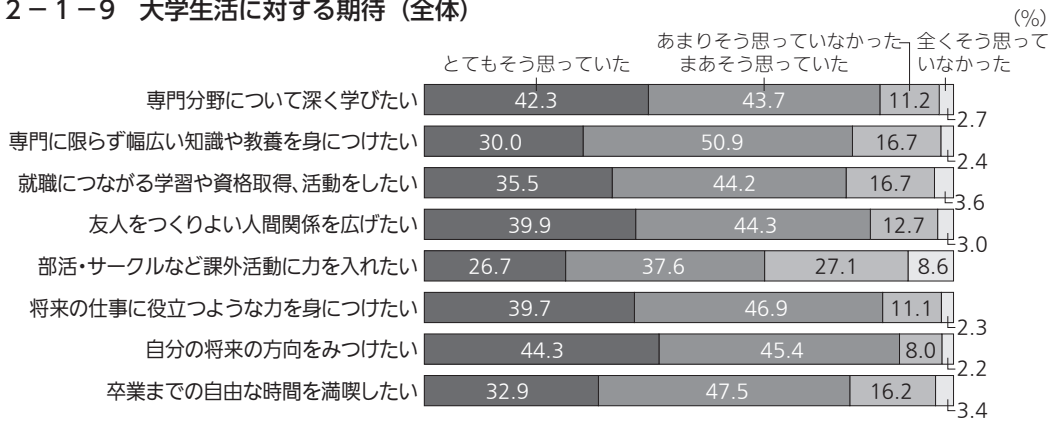
そして、学部系統別にみたものが図2-1-10である。専門分野への期待について、「理工」「農水産」「医・薬・保健」系は全体平均より高く4割を超えているが、「人文科学」「教育」では平均程度、社会科学では21.0%と圧倒的に低い値となっている。それ以外の項目をみると、学部系統によって多少の差異はあるものの、学生の大学生活への期待は多様化してきていることがうかがえる。

最後に、大学生活への期待と進学満足度の関連についてみたものが図2-1-11である。これをみると、課外活動系を重視している学生の満足度は相対的に高く、学び系は中程度、将来の方向性など就職に関わる活動を重視している学生の満足度が低いことがわかる。



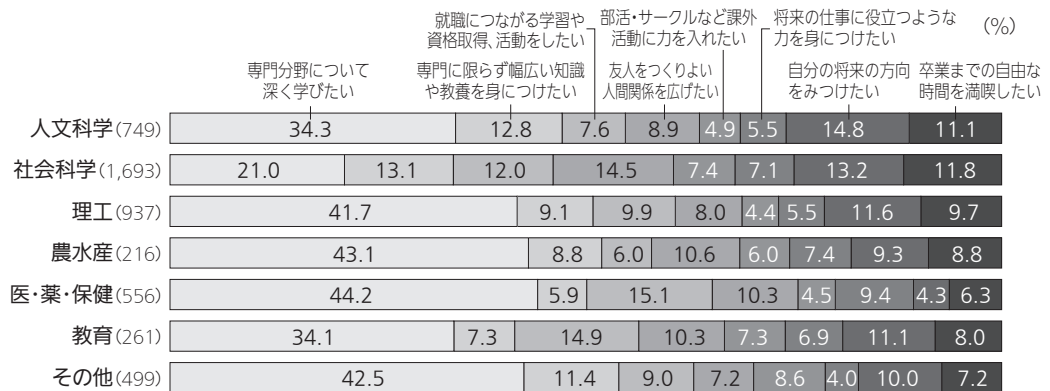
あなたが大学に入学した時、次のことをどのくらい思っていましたか。
それぞれについて、あてはまるもの1つをお選びください。

図2-1-9 大学生生活に対する期待（全体）



前問の8項目の中で、あなたが入学時にもっとも強く思っていたことはどれですか。

図2-1-10 大学生生活に対して最も期待していること（学部系統別）



注1) 図は入学時に強く思っていたことの第1位として選択されたものを示す。 注2) ()内はサンプル数。以下同。

図2-1-11 進学満足度（大学生生活に対する期待別）

